

教 学 の 手 引 き

2011

人文総合科学インスティテュート  
京 都 学 プ ロ グ ラ ム

文 学 部



## Table of Contents

# 人文総合科学インスティテュート京都学プログラム

### I 人文総合科学インスティテュート京都学プログラム 教学紹介

① 教学理念と目標	3
② 履修のしかた	3
③ 履修モデル	5
④ カリキュラムと科目概要	7
⑤ 京都学研究入門	10
⑥ 京都学基礎講読	11
⑦ 他専攻科目の受講について	12
⑧ 共同研究室の利用について	12
⑨ 人文系文献資料室について	12
⑩ 図書館について	12
⑪ 関連する諸施設について	13
⑫ 卒業論文 執筆要綱	13

### II 科目一覧と履修方法

① 科目一覧	18
② 履修方法	19

#### 「教学の手引き」の使い方

「教学の手引き」は、専攻・プログラムにおける皆さんの学びの指針となるものです。毎年配布される履修要項とあわせて、履修に役立ててください。

この「教学の手引き」は、皆さんが卒業するまで使用するものです。再配布はしませんので、大切に保管してください。

記載内容に変更・追加がある場合は文学部ホームページ（URL：[http://www.ritsumei.jp/lt/lt07\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt07_j.html)）や掲示で随時発表しますので、定期的に確認をしてください。



# I

人文総合科学インスティテュート  
京都学プログラム 教学紹介



## 1 教学理念と目標

「京都学」とはどのような学問でしょうか。「哲学」「心理学」「歴史学」「文学」「地理学」といった人文学のさまざまな学問領域とは違って、新しい教学体系である「京都学」は、最初にその定義が問われる学問です。

「京都学」について知るためには、「京都」を知ることから始めなければなりません。平安遷都以来、大陸文化を積極的に受容しつつ、「京都」は独自の文化を国内外に発信し続けてきました。「京都」は日本の他の地域を圧倒する文化的価値を持ち続けてきたのです。一方、現在の「京都」は数多くの問題を抱えています。景観をめぐる問題はその一つです。「破壊」と「保全」の二項対立で捉えられてきた「京都」の景観問題は、多くの人々によるさまざまな議論を経ても、未だ有効な解決策は示されていません。伝統産業の衰退も深刻な問題です。現在の「京都」が日本の他の代表的都市と比較して、決して優位な立場にないことは明らかです。そしてそれは、世界的視野で見たときの「日本」の立場と酷似しているのです。

このような「京都」の長年にわたる文化的蓄積や現代の問題を、先学によって培われてきた人文学的手法を用いて解明することは、長年にわたって蓄えられてきた「京都」の文化的資源を後世に伝え、日本文化とは何かを把握・理解するだけでなく、現代の日本が抱える問題点を顕在化させる契機にもなるのです。

「京都」の文化的特質や普遍性を追究し続け、その多様な価値を認識し、日本文化の根源的・本質的理解に迫る学問であると同時に、現在の「京都」が抱える種々の問題を的確に把握し、地域の実情に即して、その人文学的解決法を提案するための基礎となる学問——それこそが「京都学」なのです。

このような定義を踏まえ、京都学プログラムでは、歴史学・文学・地理学の三領域の異なる研究手法を複合的に用いて、ローカル・リージョナル・グローバルの観点から多様に捉えることのできる研究フィールドである「京都」にアプローチしていきます。

具体的には、

- ① 京都に息づく歴史的な文化はどのように創出・醸成されてきたのか
- ② 京都をめぐる多彩なイメージの背景を的確に捉えることができるか
- ③ 京都を契機として日本文化の普遍的意義を検証することはできるか
- ④ 現代の私たちが後世に残る新たな伝統を生み出すことはできるのか
- ⑤ 人文学的知見を活かしつつ地域のために貢献することはできるのか
- ⑥ 獲得した成果を京都から世界各地に向けて発信することができるか

などの課題に多面的・多角的に取り組むことで、「京都学」に人文学的可能性を見出していくことが最大の目的です。

その上で、京都学プログラムでの四年間の教学を通じて期待される教育目標は以下の通りです。

- ① 「京都学」の研究手法や研究成果を幅広く理解するための知識や知見を磨きます
- ② 「京都学」の研究手法や研究成果に対する的確な評価と批判的検討方法を培います
- ③ 人文学的研究手法を用いた研究対象の分析力と主体的・創造的な見解を培います
- ④ 口頭及び文章を通して研究成果を論理的かつ正確に発表するための力を養います
- ⑤ 「京都学」での成果を他の学問領域へ援用するための応用力や発想力を養います

## 2 履修のしかた

京都学プログラムの科目は、小集団科目（ゼミナール）と講義科目に大別されます。このうち、小集団科目はプログラム教学の基幹となるもので、1回生では「京都学研究入門」、2回生は「京都学基礎講読」、3回生は「京都学演習Ⅰ」、4回生は「京都学演習Ⅱ」をそれぞれ登録し、受講します。

文学部では「卒業論文」が必修です。卒業論文は、教員の指導による学習の到達点ではなく、自発的な問題意識に基づく研究の成果です。その成果を有意義なものとするため、研鑽し続けていくことが京都学プログラムで学ぶ最大の目的なのです。1回生配当の小集団科目が「研究入門」と呼ばれているのもそのためです。「研究入門」では、

自発的に研究課題を見出していくために必要な研究方法の基礎を習得していくことを目標としています。「京都学研究入門」では前期に、人文科学的学問分野の研究動向を概観した後、「京都」の歴史的特質を文学・歴史学の立場から深く検証します。それをふまえて後期は、地理学的視点に基づき、フィールドワークの方法を学びます。フィールドワークは、文献資料に基づく考察では獲得できない京都の現在——現実の京都が抱える問題点を見出し、その解決法を探究し、人文科学的立場から地域に貢献するための重要な契機になります。「京都」に対して日常的に強い関心を抱くことはもちろん、とても難しいことですが、歴史学・文学・地理学の3領域の異なる研究手法に基づく複合的研究について深く理解できるよう心がけてください。そのためには、研究分野別のテーマで開講される「京都学概説Ⅰ～Ⅳ」だけでなく、「日本文学概論」・「史学概論」・「人文地理学概論」などの科目も大いに参考になるでしょう。

2回生の「京都学基礎講読」では、「研究入門」での到達を踏まえ、歴史学・文学の二つの立場から、各自の問題意識を研究のレベルに引き上げるための実践的取り組みを、演習形式で行います。本格的な研究を行うためには、各自で設定したテーマに関連する分野の知識を獲得し、応用力を身に付けることが必須です。2回生担当の「京都学フィールドワーク」と「京都学基礎研究Ⅰ～Ⅲ」を併せて受講することで、幅広い視野を獲得するとともに、各自が研究テーマやその方法について自覚できるようになることが目標です。

「京都学」は研究手法が一元化されない一方、新たな視点や手法を臆することなく提起できる実験的な研究領域と見なすこともできます。3回生小集団科目である「京都学演習Ⅰ」・4回生担当の「京都学演習Ⅱ」を受講し、「京都学応用研究Ⅰ・Ⅱ」や「京都学特殊講義Ⅰ～Ⅳ」などの演習や講義で応用力や専門性を高めつつ、自覚的かつ積極的に研究テーマの獲得に向けた努力を行うなかで、まちづくりやコミュニティ形成・景観・観光・産業振興・教育文化施策など、地域における種々の問題解決能力を身に付けることも可能なのです。

### 3 履修モデル

#### モデル1：フィールドワーク重視型（地域研究型）

科目区分 学年	必修科目	登録必修科目	専攻科目	教養科目・他専攻・人文科学総合講座等の科目	資格課程・副専攻等	
1 回生		京都学研究入門 京都学概説Ⅰ～Ⅳ (科目の一部が登録必修)	リテラシー入門(教養)	京都学概説Ⅰ～Ⅳ (登録必修に加えて)	歴史観の形成(教養) 東アジアと朝鮮半島(教養) 文化人類学入門(教養) エリアスタディ入門(教養) 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ(推奨科目) 史学概説Ⅰ(推奨科目) 考古学概説Ⅰ・Ⅱ(日本史) 日本史研究法(人文) 人文地理学概説Ⅰ・Ⅱ(推奨科目) (人文)	教職科目
2 回生	京都学フィールドワーク 京都学基礎研究Ⅰ～Ⅲ	京都学基礎講読	京都学基礎研究Ⅰ～Ⅲ (登録必修に加えて) 京都文化論Ⅰ・Ⅱ 京都地域論Ⅰ・Ⅱ	日本文学史Ⅰ～Ⅳ(日文) 日本史学史(日本史) 民俗学Ⅰ・Ⅱ(人文) 民間文芸学(人文) 日本文化史Ⅰ・Ⅱ(日本史) 仏教美術史(学際) 日本絵画史(学際) 人間と宗教(学際) 文化人類学(学際) 環境地理学Ⅰ・Ⅱ(地理) 歴史地理学(地理) 文化地理学(地理) 都市地理学(地理) 人文科学のための情報処理(教養) (以上は3回生までにバランスよく受講すること)	教職科目 (副)外国語コミュニケーション科目 エリアスタディ副専攻 イノベーション副専攻	
3 回生		京都学演習Ⅰ	京都学応用研究Ⅰ 京都学特殊講義Ⅰ～Ⅲ	観光学(教養) 地域政策(人文) 都市計画(人文) 都市環境政策(人文) 京都の美術(学際) 日本文学と儀礼・学問Ⅰ・Ⅱ(日文) 日本文学と芸能・美術Ⅰ・Ⅱ(日文) 日本文学とメディア(日文) 日本文学と音楽(日文) 日本史特殊講義Ⅰ～Ⅳ(日本史) 地理学特殊講義Ⅰ～Ⅳ(地理) 地理学特別実習Ⅰ～Ⅳ(地理)	教職科目 (副)外国語コミュニケーション科目 エリアスタディ副専攻 イノベーション副専攻	
4 回生	京都学演習Ⅱ 卒業論文					

このモデルのテーマ：人文学的方法に基づくフィールドワークを軸とした研究手法を獲得するため、京都の文化や社会的諸相を幅広く学習する。

凡例：教養科目(教養)；人文科学総合講座(人文)；日本文学専攻(日文)；日本史学専攻(日本史)；地理学専攻(地理)；学際プログラム(学際)など

モデル2：インターンシップ重視型（地域貢献型）

科目区分 学年	必修科目	登録必修科目	専攻科目	教養科目・他専攻・人文科学総合講座等の科目	資格課程・副専攻等	
1 回生		京都学研究入門 京都学概説Ⅰ～Ⅳ (科目の一部が登録必修)	リテラシー入門(教養)	京都学概説Ⅰ～Ⅳ (登録必修に加えて)	歴史観の形成(教養) 東アジアと朝鮮半島(教養) 文化人類学入門(教養) エリアスタディ入門(教養) 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ(推奨科目) 史学概説Ⅰ(推奨科目)(教養) 考古学概説Ⅰ・Ⅱ(日本史) 日本史研究法(人文) 人文地理学概説Ⅰ・Ⅱ(推奨科目) (人文)	教職科目
2 回生	京都学フィールドワーク 京都学基礎研究Ⅰ～Ⅲ	京都学基礎講読		京都学基礎研究Ⅰ～Ⅲ (登録必修に加えて) 京都文化論Ⅰ・Ⅱ 京都地域論Ⅰ・Ⅱ	日本文学史Ⅰ～Ⅳ(日文) 日本史学史(日本史) 民俗学Ⅰ・Ⅱ(人文) 民間文芸学(人文) 日本文化史Ⅰ・Ⅱ(日本史) 仏教美術史(学際) 日本絵画史(学際) 人間と宗教(学際) 文化人類学(学際) 環境地理学Ⅰ・Ⅱ(地理) 歴史地理学(地理) 文化地理学(地理) 都市地理学(地理) 人文科学のための情報処理(教養) (以上は3回生までにバランスよく受講すること)	教職科目 (副)外国語コミュニケーション科目 エリアスタディ副専攻 イノベーション副専攻
3 回生		京都学演習Ⅰ		京都学応用研究Ⅱ 京都学特殊講義Ⅰ～Ⅲ	観光学(教養) 地域政策(人文) 都市計画(人文) 都市環境政策(人文) 京都の美術(学際) 日本文学と儀礼・学問Ⅰ・Ⅱ(日文) 日本文学と芸能・美術Ⅰ・Ⅱ(日文) 日本文学とメディア(日文) 日本文学と音楽(日文) 日本史特殊講義Ⅰ～Ⅳ(日本史) 地理学特殊講義Ⅰ～Ⅳ(地理) 居住環境デザイン論 都市構造論(産社) 参加のデザイン論(産社)	教職科目 (副)外国語コミュニケーション科目 エリアスタディ副専攻 イノベーション副専攻
4 回生	京都学演習Ⅱ 卒業論文					

このモデルのテーマ：三回生時での京都学応用研究Ⅱの受講を目的としつつ、人文科学的京都学の新たな研究手法を獲得するため、  
京都の文化や社会的諸相を幅広く学習する。

凡例：教養科目(教養)；人文科学総合講座(人文)；日本文学専攻(日文)；日本史学専攻(日本史)；地理学専攻(地理)；  
学際プログラム(学際)など

## 4 カリキュラムと科目概要

回生	科目名	単位数	必修・選択
1	京都学研究入門	4	登録必修
	京都学概説Ⅰ	2	登録必修
	京都学概説Ⅱ	2	登録必修
	京都学概説Ⅲ	2	登録必修
	京都学概説Ⅳ	2	登録必修
2	京都学基礎講読	4	登録必修
	京都学フィールドワーク	2	必修
	京都学基礎研究Ⅰ	2	2科目登録必修 うち1科目選択必修
	京都学基礎研究Ⅱ	2	
	京都学基礎研究Ⅲ	2	
	京都文化論Ⅰ	2	選択
	京都文化論Ⅱ	2	選択
	京都地域論Ⅰ	2	選択
	京都地域論Ⅱ	2	選択
	京都学特別講義	2	選択
3	京都学演習Ⅰ	4	登録必修
	京都学応用研究Ⅰ	4	選択
	京都学応用研究Ⅱ	4	選択
	京都学特殊講義Ⅰ	2	2科目登録必修 うち1科目選択必修
	京都学特殊講義Ⅱ	2	
	京都学特殊講義Ⅲ	2	
	京都学特殊講義Ⅳ	2	
4	京都学演習Ⅱ	4	必修
	卒業論文	4	必修

### <科目概要>

#### 京都学研究入門

前期は、大学における学び方や文献の集め方等を身につけた上で、「京都」の歴史的トピックに関するグループ発表をすることで研究手法の基礎を学ぶ。後期は地域研究を始めるにあたっての基礎的知識（地理学的素養）を身につける。加えて、レジュメや論理的な文章の書き方を含め、プレゼンテーション能力を身につける。

#### 京都学概説Ⅰ

京都を歴史学の方法論に基づく多様な視点から考察することで、過去の事物・事象、京都に根付く伝統や文化について、断片的な「点」から「線」そして「面」として把握し、総合的に理解する。

#### 京都学概説Ⅱ

「風景」「景観」「保全」などをキーワードとし、転機を迎えつつある京都の歴史・地域的背景を取り上げ、地域振興の実践を探る。また、京都の特徴的な地域の社会的・空間的なコンテキストに位置づけることを通じて、「文化」ないし「伝統」と称される事象を動的に把握する。

#### 京都学概説Ⅲ

京都は、平安以後日本文学創成の場であり、文学（作品）の宝庫であり続けてきた。本講義では、文学生成の〈場〉としての京都、作品の〈舞台〉としての京都、文人たちの〈住〉としての京都など様々な視点から文化・芸術〈空間〉

京都を考察し、意味づけて行く。

#### 京都学概説Ⅳ

現在の我々にとっての造形の魅力、過去の人々の造形への意識、宗教彫刻の意味や機能、そして東洋美術全体の中での位置づけなど、美術史的考察を中心としつつ、宗教学、歴史学、考古学といった隣接分野の成果も援用しながら、理解を深める。

#### 京都学基礎講読

半期（歴史）：京都にまつわる歴史的資料の講読を通じて、正確な情報を読み取り、整理し、発表する力を養う。

半期（文学）：京都を題材とした文学作品を通し、作品の背景をなす歴史や世相を調査・分析し、発表する力を養う。

#### 京都学フィールドワーク

京都の歴史・地理・社会・文化などの理解を深めるために、文献・資料の調査等とならんで重要な、現地での観察や聞き取り、資料収集などを中心とする調査手法（「フィールドワーク」）を学び、実際に現地での調査を経験する。

#### 京都学基礎研究Ⅰ

京都と美術・文学作品とのかかわりを、具体的な諸作品の分析や舞台となった場所の探求を通して明らかにする。美術学・文学的アプローチを活用して京都文化の一側面を調査・研究する。

#### 京都学基礎研究Ⅱ

京都に関する史資料を通してテーマを定め、歴史的な事象の分析や地域史など歴史的アプローチを活用して、歴史都市といわれている京都の過去の有り様を調査・研究する。

#### 京都学基礎研究Ⅲ

過去から現在に至るまで京都には多くの資料が存在する。これらを最新のデジタル技術や関連するアプローチを活用しながら、あるテーマに基づいて読み解き、復原することによって今まで見ることが出来なかった京都を視覚化する。

#### 京都文化論Ⅰ

日本文化・芸能の発祥の地である京都において、文化や芸能はどのように作られ、伝承されてきたのか、さらに将来、それはどのような方法で伝承・維持されようとしているのか、文化施策や観光とのかかわりも含めて考察する。またその特色を明らかにするために、日本全体や世界も視野に入れながら検討する。

#### 京都文化論Ⅱ

現在の京都の風景や景観がどのように継承され、また一方で変化を遂げているのかについて、未来への展望も含めて検討する。また、年間約5000万人の観光客が訪れる京都における観光地域の変化や観光政策の動向、観光が文化の形成に与える影響についても考察する。

#### 京都地域論Ⅰ

現代の京都をとりまく状況、産業の発展や地域構造の再編と観光とのかかわり、都市景観や教育行政など、に関する基本的事項、概念や具体的な政策および様々な活動を理解する。また、地域における取り組みや活性化に取り組むNPO団体の活動にも言及する。

#### 京都地域論Ⅱ

京都の都市政策や文化政策の考察を踏まえ、世界の中で占める京都の位置や京都が世界の中でどのようにとらえられているのか、歴史都市と呼ばれている他の都市との比較検討を含めて、現状を知るとともに、今後の進むべき方向性を模索する。

### 京都学特別講義

京都学関連を初め、日本文化との関係など、科目の枠を越えた、様々なトピック・テーマについて講義し、理解を深める。

### 京都学演習 I

京都学にまつわる基礎的な知識を踏まえ、受講生各自／グループの関心に合わせたテーマを設定し、調査・研究を進める。前期には設定したテーマに関わる先行研究を行い、予想される結果と研究の意義を導き、基本的な資料の収集、フィールドワークを行う。後期は、前期・夏季休暇中の成果を踏まえ、分析・考察を繰り返しながら、必要な追調査を行ない、最終成果のまとめに向けた作業を進める。

### テーマリサーチ型ゼミナール

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールである。21世紀の「知」のグローバリゼーションを目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチしうるテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的テーマを設定する。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直している。3回生のゼミ選択の際には、卒業時（4回生）にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといった事を考え、ゼミを選択する。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選ぶ。

### 2011年度3回生ゼミテーマ

例)「説き方の表現と教育心理学」、「中国映画から現代中国の文化を考える」、「THEMES IN ASIAN STUDIES」

### 京都学応用研究 I

京都学フィールドワークにおける学習を踏まえ、テーマ設定や調査対象・方法の高度化を図った上で調査研究を行い、その成果をまとめ、発表する力を養う。

### 京都学応用研究 II

地域の歴史や文化に関連する活動を行っている諸団体への研修〈インターンシップ〉を通して、その地域資源や地域の課題を見だし、人文学の視点から地域還元について取り組む。また、地域の課題の発見とその対応策の検討に必要なテクストリーディングも行う。

### 京都学特殊講義 I

あるテーマに基づく美術作品や文学作品を通して「京都」の特質を明らかにする一方、「京都」という視点から、美術や文学について検討する。

### 京都学特殊講義 II

京都における政治・社会・文化の歴史事象や概念について、関連する史資料の読解を行う。その中で、論点や問題点を発見し、現在あるいは未来への展開について検討する。

### 京都学特殊講義 III

京都の街並みの中に残る文化財（建築物を中心に）や社会空間の諸相とその変遷、自然と人・社会との関係などについて、過去の資料とともに最新のデジタル技術を用いながら、その変遷や生活との関係などについて考察する。また、「バーチャル京都システム」など、先端技術にもふれる。

### 京都学特殊講義 IV

地域における取り組みや活性化に取り組むNPO団体の活動、地域政策の重要性と政策形成について理解を深め、望ましい地域のあり方の展望とともに人材養成のノウハウを学ぶ。また、地域還元の実践に向けた活動をも模索する。

## 京都学演習Ⅱ

京都学に関する学修の総仕上げとして、各自の関心に基づき設定したテーマについての調査研究を行い、成果をまとめる。

## 卒業論文

京都学演習Ⅱにおける成果を卒業論文（成果物を含む）としてまとめる。

## ■外国語

履修できる外国語は以下の通りとする。

第1外国語 英語

第2外国語 ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語

## ■教職課程

取得できる免許状は以下の通りとする。

中学校国語科・高等学校国語科・中学校社会科・高等学校地歴科・高等学校公民科

# 5 京都学研究入門

## (1) 京都学研究入門とは

「履修のしかた」で確認したように、京都学プログラムでは、自発的に研究課題を見出し、厳密な検証を経て、優れた成果を公表できる能力を培うことを目標としています。そのためには、高校までとは異なる形式の授業で訓練することが不可欠です。このような大学特有の授業を一般的にゼミナールと言います。京都学プログラムでは3・4回生担当の「京都学演習Ⅰ・Ⅱ」がこれにあたります。ゼミの授業では各自、研究課題を決定、研究方法を確定した上で、研究結果を口頭及び文章で的確に報告するための発表や討議が繰り返し行われます。評価のポイントは「自分の研究に説得力があるか」です。先行研究を咀嚼し、学界の動向をふまえ、オリジナリティあふれる問題提起に基づく十全の調査検討を経た上で、結論を導き出すことができているか、そのすべての段階において不足のない研究は、強い説得力を持ち、人々に深い共感を与えるのです。

1回生がこれから履修する「京都学研究入門」という小集団科目の目標は、上で述べた3・4回生ゼミでの調査・研究と発表・討議を有意義なものとするため、その導入的・初歩的段階のものを実際に体験することで方法論を習得し、4年間の大学生活で期待される有益な成果を確かなものとするににあります。

具体的には、前期セメスターの最初に、調査・研究の準備や、発表に際しての手続き、年度途中や年度末に提出が求められるレポートや小論文の書き方などについて分かりやすく説明します。その後、4・5人のグループ（班）に分かれ、グループごとに与えられたテーマや課題（しかし全体として統一した興味関心に基づくテーマ）について調査・討議して全体のレジュメを作成し、授業で発表する、という形式で授業を行います。

発表テーマは年度ごとに確定し、一例を挙げると、

- ①平安京以前の京都—賀茂・松尾・伏見稲荷—
- ②大内裏と右京・左京—『池亭記』の世界—
- ③鴨川と市街地の拡大—平家の栄華と六波羅—
- ④足利氏と禅宗寺院—記憶された景観の修正—
- ⑤全国経済の要としての中世京都—町衆の登場—
- ⑥洛中洛外図の世界—室町ごろ—
- ⑦豊臣秀吉の京都改造—天下統一の象徴としての京都—
- ⑧二条城と禁裏—なぜ徳川家康は京都に幕府を開かなかったのか—
- ⑨番組小学校と明治の京都—東京奠都後の京都—

## ⑩平安神宮と「京都策」―「古都」として再生する京都―

などを考えています。

後期セメスターでは、前期の研究入門において学んだ文学、歴史学の方法によるアプローチに加えて、地理学の基礎的な研究方法について学びます。京都学プログラムで行う研究のプロセスでは、フィールドワークによって情報を収集し、地図資料を通して研究対象地域で生じている現象を考察していく、いわゆる地理学の研究手法が必須となります。そこで、後期の授業では、フィールドワークや地図を用いた地域の基礎的な分析に焦点をあて、それらの方法について学びます。「京都の景観」を題材とした初歩的なレベルの地理学研究を経験することを後期の目標とします。そして、実際に京都を研究対象地域にして、簡単なフィールドワークを行い、調査成果をまとめ、レポートを執筆します。

具体的には、

- ◇地理学にかかわる文献の検索や収集の方法
- ◇論文の読み方
- ◇資料（地図、空中写真、統計など）の収集の方法
- ◇地形図の読図
- ◇フィールドワークの方法
- ◇地図表現と地図制作の方法
- ◇地図を用いた分析の方法
- ◇プレゼンテーションの方法、レポート・論文の書き方

などを中心に学びます。

## 6 京都学基礎講読

「京都学研究入門」の受講で、卒業論文完成のための「研究」に向けた第一歩を踏み出したことを確認した上で、更に研究手法を磨いていくために設けられたのが、2回生担当の小集団ゼミ「京都学基礎講読」です。

すべてが「京都」をキーワードに開講されているはずの京都学プログラムの各科目にあって、とくに「京都学概説」I～IVを受講した人は、「京都」の定義が授業ごとに微妙に異なっているだけでなく、「京都」へのまなざしも驚くほど多彩で、そのアプローチの仕方、つまり研究手法も多岐にわたる、という感想を抱いたのではないのでしょうか。その違いに愕然としつつ、「京都学が何かさっぱり分からない」と不安になった人も少なくないでしょう。一年を経て、自分自身の研究テーマを掴みかけた人は、まだまだ多くはないはずですが、全くつかめていなくてよいのです。まだまだ不安、でも意欲だけは満ち溢れているのが京都学プログラム2回生の特色です。

一方で卒業論文提出までの残り時間はもう3年しかありません。少しでも自身の問題意識を顕在化するため、研究テーマを深めることに十分な時間を割くことができるよう、クラスで共通の研究課題やテキストを通じて、更に深い研究手法獲得のためのシュミレーションを行うのが「京都学基礎講読」です。

京都学プログラムの学びは学際的かつ総合的です。皆さんは自分自身の問題意識を自覚していくなかで、その問題提起を解決するための手法が実は地理学的であったり、歴史学的であったり、文学的であったことを後で気付くことになるのです。そのためには「町衆」「職人」「景観」といった京都に関わる具体的なテーマに基づく授業が効果的です。「京都学基礎講読」では前期を歴史学の手法で、後期は文学作品をテキストに深く読解することで、問題解決のための学際的手法を学習していきます。前後期で統一したテーマを設ける一方、違った切り口からアプローチすることで、研究方法の多彩さと問題設定の有用性を獲得することを目的とします。

## 7 他専攻科目の受講について

通常、所属していない他の専攻の科目については、受講できる科目とできない科目があります。履修要項で、「専攻プログラムの学生のみ受講できる科目」は、原則として、講読の科目や実験実習科目は少人数のクラス編成をしていますので、その専攻の学生以外は受講することができません。ただし、京都プログラムの皆さんは3回生になると、京都学の教学と関連する日本文学専攻、日本史学専攻、地理学専攻の科目のうち、以下の表の科目を受講することができます。なお、定員制限があり、予備登録が必要です。これらの科目の履修は、決して安易に考えないでください。これらのほとんどの科目は、その専攻の学生にとっては必修科目もしくは登録必修科目となっています。安易な受講と履修放棄は、授業運営に重大な支障をきたします。

専攻	科目
日本文学専攻	日本文学講読演習Ⅰ、日本文化講読演習Ⅰ
日本史学専攻	日本史史料講読、古文書学、考古学実習 ※ 考古学研究法Ⅰ・Ⅱ、考古学外書講読
地理学専攻	地理学特別実習Ⅰ～Ⅳ※、地理学実習※、製図実習 ※ 野外実習Ⅰ・Ⅱ※ GIS実習Ⅰ・Ⅱ※、測量学および実習 ※ 地理学アドヴァンスト野外実習Ⅰ・Ⅱ※ 地域統計学、リモートセンシング学

・「※」印の科目の履修は1科目あたり、3,000円の履修料が必要です。

## 8 共同研究室の利用について

京都学プログラムの共同研究室は啓明館1階の東側にあります。室内の書架には、京都学関係の書籍・雑誌・広報誌や視聴覚資料が配架されています。ルールを厳守して、研究活動に大いに活用することが期待されます。資料室には実習助手が常駐し、PCの使用やフィールドワークなどの補助をします。また、書籍等の一時貸し出しも予定しています。詳細は研究入門前期で説明します。

## 9 人文系文献資料室について

人文系文献資料室は、修学館地下1階にあり、清心館の東向かいに入口があります。利用時間は月曜日から金曜日の午前9時から午後8時までと、土曜日の午前10時から午後5時です。日曜日・祝日は利用できません。それ以外にも書庫整理などで閉室する場合があるので、開室時間の詳細は本学図書館（総合情報センター）のウェブページを参照してください。使用法の詳細は、研究入門前期で説明します。

## 10 図書館について

研究方法が多岐にわたる京都学プログラムで研究を進める上で、従来の図書分類法に基づいて配架されている図書館は決して使い勝手のよいものとは言えないでしょう。逆に図書館を使いこなせるようになればもれなく、自分の学力が向上したことを実感できることと思います。大学保有の図書の大部分はデータベース化されていますので、図書館の図書検索システムである「RUNNERS」で所在等を簡単に確認できます。図書館の重要な役割の一つであるリファレンスカウンターは図書館入口の正面つきあたりにあります。ここでは書庫にある本の貸し出し申請や、貴重本閲覧の申請（詳細は研究入門前期で説明します）また、資料の所在調査などを依頼できます。必要とする書籍・雑誌や資料が本学図書館にない場合、他大学の図書館が所蔵していることが分かったときは、閲覧のための紹介状を発行してもらうこともできます。資料や複写の取り寄せも依頼できます。

## 11 関連する諸施設について

人文系文献資料室や図書館の他にも、京都学プログラムにおける研究を進める上で関連する施設があります。各自の研究領域に応じて、上手に活用して下さい。詳細については、授業の中で案内します。

### 〈マップライブラリ（清心館2階）〉

マップライブラリは地理学専攻の施設です。地形図や住宅地図などの地図資料、空中写真、京都に関連する図書や統計も所蔵されています。A2サイズのコピー機やA2・A3サイズのスキャナも備えられており、所蔵資料に限定して研究活動のために使用することができます。ただし、入室する際には、毎回氏名の記入などの利用手続きが必要となります。この施設の利用にあたっては、マップライブラリに常駐している地理学専攻の実習助手の指示にしたがってください。

### 〈アート・リサーチセンター〉

アート・リサーチセンターは、主に芸術、文化に関するデジタル・アーカイブに関する研究を進めている研究施設です。京都に関わる資料が多数所蔵されています。

アート・リサーチセンターのホームページからは、所蔵されている絵画や浮世絵などの資料を検索し、閲覧することができます。地下1階には展示室が設けてあり、定期的にアート・リサーチセンターの研究にかかわる展示会が開催されます。

・アートリサーチセンターホームページ <http://www.arc.ritsume.ac.jp/>

## 12 卒業論文 執筆要項

京都学プログラムでは、文学と歴史学、地理学の方法を総合的に活用し、卒業論文を執筆することが望まれます。卒業論文の位置づけは、当然のことながら各分野とも共通するものです。論文を作成するには、(A)自分がどのような問題について、いかなる目的・観点から取り組むかを明確にしなければなりません。そして、(B)どのような方法・資料を用いて問題解明したかを明示して、(C)分析を行い、(D)分析から導き出された結果を示します。そして、最後に、(E)その結果に基づいて考察した結論を出す必要があります。

しかし、各分野の研究手法の細部をみれば、扱う資料が異なることもあり、分析方法はバラエティーに富んでいます。以下、各分野における卒業論文の特徴について紹介します。ここでは、文学と歴史学、地理学のアプローチを軸とした、それぞれの分野の研究手法について説明しますが、これは決して総合的な学びを妨げるものではありません。京都学プログラムの卒業論文では、むしろ、複数領域にまたがる研究を推奨するのが教学の特徴のひとつなのです。

### ■文学的アプローチを軸として総合的に研究する卒業論文

卒業論文は、研究入門から基礎講読を経て演習にいたる一連の学習で身につけた知識と方法を活用し、各人の具体的な研究テーマを自分の力で掘り下げ究明して、その成果をまとめるものです。従来の研究成果を踏まえた上で、批判的な態度でこれに新しい知見を加えることが期待されます。自分の考えを他の人に伝えるために寄りどころとなる的確な根拠を提示し、論理的な文章展開で読み手を導くように分かりやすく説明することが大切です。

書誌や先行研究、あるいは研究史などの成果も簡潔に紹介し、同時にその問題点をあげ、それと自己の考えとを対照させて論述するのもよいでしょう。この時、特に大切なのは他人の説や用例と、自分が考えたり見つけたりしたそれとの区別が明確に分かるように記述することです。

ことさら難しい術語を使ったり、奇をてらった文体や展開は避けるのが望ましいでしょう。新しい用語や特有の表現などがどうしても必要な場合は、自分なりの定義や説明を注等で示します。関連分野の論文も、参考になります。

作品・資料の熟読、関連する先行研究の批判的摂取、これらを通じて自分なりの問題発見、そして解決法を探り、論を立てます。そして、それらの分析・考察を理解してもらえるように、論理的な文章でまとめることが重要です。作品・資料の理解・把握については、現代的視点や今の自分の立場も大事ですが、その時代・その作者の考えや感

覚を理解する方向で行うことが肝要です。その上で、自らの論考を練り上げていくように努めることが求められるのです。

また、関連する研究ばかり集めて振り回され、肝心の直接的な作品・資料の読みがおろそかになることは避けるべきです。直接的な対象を熟読玩味し、関連する研究によってこれを補い、またさまざまな解釈のあることを知り、批判的な態度で自分の見方や考えを深めていくのがよいでしょう。

#### ■歴史学的アプローチを軸として総合的に研究する卒業論文

テーマは、論部の出発点であると同時に帰着点でもあります。いかに多くの史料を漁り労力を費やしても、明確な問題意識によって定められたテーマをもたないかぎり、良い論文はできません。テーマに関連する研究がどこまで進み、何が問題として残されているか知るために、研究史の整理はたんねんにやらねばならないのです。

次には、史料の有無の点検が必要です。いかに問題意識が鋭くても、史料がないか、あっても利用できなければ、歴史学の論文にはならないのです。

史料の蒐集は徹底的・網羅的に行うことが大切です。史料はできるだけ原文・原史料にあたり、原史料にあたり難い古文書・古記録の場合は、写真や影写本によるか、あるいはもっとも信頼のおける刊本を選ばなければなりません。他の論文等に引用されているものをそのまま利用する、いわゆる孫引きは、誤読・誤解のもとであり、必ず原典に遡って検討を加えなければなりません。

史料を集め、研究がある程度進んだ段階で、論文の構成を考えましょう。論文構成にはいろいろ型がありますが、基本的には、序論・本論・結論の三つの部分からなります。序論では、問題の所在を明らかにし、どのような角度からどのような方法で追究するか記します。本論では分析・実証を行い、結論は序論と対応しながら全体として明らかにした点を要約し、できれば展望を記しましょう。論文構成が新たな史料や研究によって変更を余儀なくされることは、誰もがしばしば経験することです。あきらめずに、何度も構成しなおす根気と努力が必要なのです。

#### ■地理学的アプローチを軸として総合的に研究する卒業論文

卒業論文のテーマ選定する場合、テーマに関する研究史はもちろんのこと、現在、地域で起こっている諸問題についても注意を払う必要があります。卒業論文では、あまり大きな対象やテーマは不適當です。なるべく実際に調査のできる地域に関する問題を取りあげるのがよいでしょう。卒業論文は、ある特定のテーマについて、独自の研究を積み重ね、なにか一つの結論に到達したものでなくてはなりません。とくにテーマを持たないで、「京都盆地の地理」「京都の人口」というようなものを概説しただけでは、卒業論文とはみなされません。既存の文献や統計・資料についての学習が必要なのは言うまでもありませんが、それら他人が書いた文章をただつなぎ合わせて作文しただけでは、卒業論文とは認められないのです。

地理学や地域研究を行う場合、インドアワークによる資料収集（デスクワーク）と野外調査（フィールドワーク）による資料収集を相互補完的に行う必要があります。インドアワークでは地図の読図や作業、統計データの整理など資料の収集と整理を伴います。たとえば、既存の統計データを地図化・グラフ化したりすることで、問題が明確化する場合が少なくないのです。

一方、地域に関わる研究を行う場合、実際に調査地に出かけて行って、フィールドワークを行い、自分でデータを作成することが必要になる場合が多くあります。現地でのどのような調査をすべきか、インドアワークによる資料の収集整理の時によく考えておく必要があります。最適な調査地を絞り込むのも、この段階です。フィールドワークで得られた、いわゆる生資料は整理され、使用できる資料に変えねばなりません。その際、実験・地図化・グラフ化などが図られるのです。

インドアワークやフィールドワークで得られて整理された結果を記載する時、他人の業績と自分で作り上げたものとの識別を厳密に行う必要があります。他人の業績については、参考文献として明示しましょう。他人のデータの無断利用は、調査研究にかかわるものとして絶対にやってはいけない行為なのです。

事実記載されたデータをもとに、自分の考えをまとめるのが第一段階の考察です。作成した複数の地図やグラフから読み取れる関連性を整理しましょう。それらの一次考察で得られた成果をもとに、一般化・モデル化などを図るのが二次考察です。その際、まとめの表や結論図が描かれます。また、最終的には先行研究との差異について議論し、どのような新しい知見が得られたのか明示しなければなりません。

#### ◆書式、体裁等の詳細は、所属ゼミの授業内で確認してください。

また、卒業論文提出までの手続きについては履修要項「『卒業論文』の提出について」を参照してください。

### テーマリサーチ型ゼミナールにおける卒業論文（卒論形式・非卒論形式）の提出について

テーマリサーチ型ゼミナールでは、従来のような卒業論文の提出（卒論形式）もありますが、クラスによっては、卒論形式に代えて、共同で制作物（成果物）を仕上げ提出する「非卒論形式」もあります。必ずクラス内で担当教員に、いずれかの形式なのかを確認してから作成してください。

#### ◆体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数：12,000 字以上 20,000 字以下 英文の場合：65 ストローク× 25 行、A4 用紙 15 枚以上 30 枚以下 ファイル形式・書式・用紙の大きさなど：クラス担当者の指示に従うこと。 必ず <b>2部</b> 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず <b>2部</b> 提出すること。
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、専攻、プログラム、氏名を必ず記載すること。
	その他の注意	学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類はこれに該当しない。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁についてはクラス担当者の指示に従うこと。 必ず <b>2部</b> 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず <b>2部</b> 提出すること。
	その他の注意	1. 制作物（成果物）には題目、学生証番号、専攻・プログラム、氏名を必ず記載するか添付すること。また、審査教員シールを貼付すること（貼付箇所は自由）。 2. 制作物（成果物）とともに、4,000 字以上の個人レポートを提出すること。 ※制作物（成果物）と個人レポートの両方を提出して初めて「卒論提出」となる。 ※個人レポートの表紙裏にも審査教員シールを貼付すること。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮称）」を実施することがある。実施日については、担当教員の指示に従うこと。

◆上記の他の提出に関する諸注意は基本的に履修要項の「『卒業論文』の提出について」に従ってください。





## 科目一覧と履修方法

# 1 科目一覽

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
講義 科目	京都学概説Ⅰ (2) 京都学概説Ⅱ (2) 京都学概説Ⅲ (2) 京都学概説Ⅳ (2)	京都文化論Ⅰ (2) 京都文化論Ⅱ (2) 京都地域論Ⅰ (2) 京都地域論Ⅱ (2) # 京都学特別講義 (2)	京都学特殊講義Ⅰ (2) 京都学特殊講義Ⅱ (2) 京都学特殊講義Ⅲ (2) 京都学特殊講義Ⅳ (2)	
実習・ 演習 科目		* 京都学フィールドワーク (2) 京都学基礎研究Ⅰ (2) 京都学基礎研究Ⅱ (2) 京都学基礎研究Ⅲ (2)	* 京都学応用研究Ⅰ (4)：通年 * 京都学応用研究Ⅱ (4)：通年	
小集団 科目	* <u>京都学研究入門(4)</u> ：通年	* <u>京都学基礎講読(4)</u> ：通年	<u>京都学演習Ⅰ (4)</u> ：通年	京都学演習Ⅱ (4)：通年 * 卒業論文 (4)：通年

1. 科目名にカッコ内数字は単位数を示します。
2. \*のついた科目は、京都学プログラム学生のみが受講できます。
3. #のついた科目は重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。

〈その他下記の科目の受講を推奨しています。〉

日本文学概論Ⅰ・Ⅱ（各2単位・日本文学専攻科目）  
考古学概説Ⅰ・Ⅱ（各2単位・日本史学専攻科目）  
人文地理学概論Ⅰ・Ⅱ（各2単位・地理学専攻科目）  
史学概論Ⅰ・Ⅱ（各2単位・人文科学総合講座科目）

## 2 履修方法

必修科目（卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目）

①	京都学フィールドワーク（2回生以上）	2単位必修
②	京都学基礎研究Ⅰ（2回生以上）	1科目2単位 選択必修
	京都学基礎研究Ⅱ（2回生以上）	
	京都学基礎研究Ⅲ（2回生以上）	
③	京都学特殊講義Ⅰ（3回生以上）	1科目2単位 選択必修
	京都学特殊講義Ⅱ（3回生以上）	
	京都学特殊講義Ⅲ（3回生以上）	
	京都学特殊講義Ⅳ（3回生以上）	
④	京都学演習Ⅱ（4回生以上）	4単位選択必修
	ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）（4回生以上）	
⑤	卒業論文（4回生以上）	4単位必修

登録必修科目（必ず登録・受講しなければならない科目）

⑥	京都学研究入門（1回生のみ）	4単位
⑦	京都学概説Ⅰ（1回生以上）	2単位
⑧	京都学概説Ⅱ（1回生以上）	2単位
⑨	京都学概説Ⅲ（1回生以上）	2単位
⑩	京都学概説Ⅳ（1回生以上）	2単位
⑪	京都学基礎講読（2回生のみ）	4単位
⑫	京都学基礎研究Ⅰ（2回生以上）	2科目4単位選択登録必修 （1科目2単位は必修）
	京都学基礎研究Ⅱ（2回生以上）	
	京都学基礎研究Ⅲ（2回生以上）	
⑬	京都学演習Ⅰ（3回生のみ）	1科目4単位選択
	ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）（3回生のみ）	
⑭	京都学特殊講義Ⅰ（3回生以上）	2科目4単位選択登録必修 （1科目2単位は必修）
	京都学特殊講義Ⅱ（3回生以上）	
	京都学特殊講義Ⅲ（3回生以上）	
	京都学特殊講義Ⅳ（3回生以上）	

専門科目以外の登録必修科目

・リテラシー入門（教養科目：2単位） 1回生前期

\*社会人学生のみなさんは、④⑤以外の必修科目、および登録必修科目はありません。ただし、条件の許す限り上記の必修・登録必修科目は履修してください。





